

-----6月8日-----

今週のアウトルック（6/8～6/12）

先週の金曜日、NY取引時間になってからドル円は大きくドル高に振れました。これは米国の経済指標、非農業部門雇用者数変化-5月の予想外の好転により、NYダウの上昇、債券価格の下落によるところが大きいようです。

ユーロドル、ポンドドルは下落しています。この傾向を見る限り、ドル高へのトレンド変化と考える向きが多いようですが、金曜日ということもあり利益確定、偏り過ぎたポジション調整という側面から抜け出せているのかどうかについてはまだわからないような気がします。

今週のドル円は先週金曜日の夜からの動きを継続できるかどうかポイントになりそうです。

前半は一時的に100円を目指すような展開になるのかもしれませんが。ただ、レジスタンスとなる99.5円、100円、101円あたりをすんなり抜けるといふわけには行かないように思います。

米国経済の本格回復の兆しが強くなった場合は抜けていくことも考えられますが、失業率の悪化と非農業部門雇用者数変化の好転というアンバランスを考えた場合、まだ本格回復基調が支配的という状況にはならないように思います。

100円から96.5円あたりのレンジを考えています。

ユーロドルは1.4割れ、ポンドドルは1.6割れ、オージードルは0.8割れという、節目となりそうなポイントを割った状態で先週を終わっています。

これはドル高トレンドへの変化と考えるより、早すぎた上昇トレンドの調整ではないかと考えています。かといって調整終了後に再び上昇トレンドを再開という展開にも少し無理がありそうにも思います。米ドルの先行き不透明感と連動して、ユーロドルであれば1.365あたりから1.41あたりまでの間でしばらく方向感のない展開が続くのではないかと考えています。

ユーロ円は、ドル円高に引きずられて、140円に迫る状況もあるのかもしれませんが、欧米時間のユーロドルの動きに左右される

力のほうが大きいように思います。130円から140円あたりまでのボックスを抜け出すには、まだ力不足のように思います。

ポンド円は英国の政局不安後退による買い戻しという状況もありそうですが、160円を大きく超えて上昇する展開は少し難しいように思います。一度大きく調整するのか、方向感のない動きになるのかどちらかのように思うのですが、方向感のない動きの可能性が少し強いように思います。150円から163円あたりを考えています。

リスク選考の動き ストレート上昇、という状況がいつの間にか、リスク選考の動き 米ドル上昇、という式に書き換えられているようにも思います。NYダウの上昇とドル高、ドル安という方向性も一致していないようなので、リスク選考の動きから為替がどう動くのか、という考え方をあまり意識しないほうが良いように思います。

またユーロドルとポンドドルなども、一時的には同じ方向へ動かない可能性が高くなることも考慮する必要があるように思います。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。